

コールセンター Q&A

Q93

患者さんの唇に症状がでており、単純ヘルペス（HSV）を疑っています。抗体検査は何法を依頼すればよいですか。

A93

患者さんの唇に症状が出ているということなので、口の周りや顔面などの上半身に発症することの多い、単純ヘルペスウイルス1型の感染が疑われます。そのため、単純ヘルペスウイルス「半定量」1型NT法でDNAウイルスの鑑別診断が可能です。

NT法での検査は鑑別診断（特異性）には優れていますが、検査日数がかかります。検査日数の短いCF法での検査はスクリーニングとしては問題ありませんが、感度が低いため臨床には向いていないと言われていています。

単純ヘルペスウイルスの検査法として、EIA法は感度が高く、またIgG・IgM抗体の分別測定も可能なため過去または現在の感染の有無が分かります。

上記抗体検査以外に、FA法を応用した単純ヘルペスウイルス特異抗原定性がありますが、これは侵襲も小さく、病変のHSV感染を証明できる有用な検査となります。また、HSV-1とHSV-2およびVZV（水泡・帯状ヘルペスウイルス）との鑑別も可能です。

*総合検査案内 p.58、p.67 をご参照ください。

お問い合わせ：☎代表 0120-14-7191（フリーダイヤル）



きやうちボール

今月号は、過去10年間における腸管病原菌の動向についての統計を掲載しました。統計をとってみると日々の検査では気付けない変化や、年齢差、性差などが分かります。また、この変化がどうして起こったのか分析することもできます。

食中毒は気温や湿度に影響を受けますが、今回は10年間ということもあり気候との関連をみることはできませんでした。次回の統計では、気候との関係も考察してみたいと思います。

今後も数年ごとに統計し、動向をお届けできればと思います。

前 かをり（検査科副技師長）

<広報委員> 谷敷 圭美 / 枡本 健 / 藤井 ひとみ / 三宅 康雄 / 加藤 与旨多 / 藤本 彩咲日